# 行政視察報告書

令和元 年 8月 1日

長浜市議会議長　松本　長治　様

長浜市議会議員　鋒山　紀子 [redacted]

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1．視察等名　会派先進地　　行政視察
2．視察期間　　令和元年　年　7　月　２５　日（木）～２６　日（金　）
3．視察場所及び目的　　前橋市役所　　「フードバンク事業」について
　　(株)環境技術研究所　　「陸上海水魚養殖システム」

4．調査内容感想等

・視察の目的　①　まえばしフードバンク事業について、まだ安全に処分されてしまう食品などを個人や企業からの無償での寄付により緊急で食料支援を必要とする生活困窮者への配布を行う事業に学ぶ

・②海から遠く離れた内陸で海水魚を養殖するにはとのテーマでの事業を学ぶ

・視察の内容

①については市民同士が助け合う共助の関係を構築することにおいて、・食品ロス・信頼関係で成り立つ・余った食品を「ありがとう」に変える。などのサイクルに変える。前橋市では、平成２９年６月１日にまえばしフードバンク事業を開始されました。県内で唯一フードバンクを運営しているNPO法人に業務委託しての自治体による

長　浜　市　議　会

フードバンク事業を実施することは、全国で初めての事例である。
利用にあたっての窓口として「まえばし生活自立相談センター」で受け付けを行って
生活状況を聴き、食料支援が必要か否かの判断をしている。包括的な支援体制を
構築されている。また直営はコストがかかることからNPOへの委託とされている。
②については前橋市は内陸部にあたり海水が汲める海までは相当の距離がある、その
状況下において海水魚を安定的提供するために試行錯誤しつつ研究に取り組んで
いる。工夫の一番の課題として、飼育水槽内の海水の汚れの除去にある。
当研究所では、ひらめの養殖に適した水槽、水処理技術の開発を続けられている。
画期的であるが開発途上である。
・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか。
フードバンクと言うと、食品ロスの視点から、ゴミ削減に向けた取組みとしての
イメージが先行するが、食料支援を必要とする方の中には、生活に困窮している方が
多くある。困窮者の自立支援施策の一つとして、福祉の視点から事業を実施する
必要性を感じ、検討された。日本の食品ロスの状況は、約643万トン、
国民一人当たり、一日約１３９ｇ、茶碗一杯のご飯が捨てられているといわれている
6人に1人が相対的貧困に陥ってる、食品ロスの考えが近年、認知度が高まってはいるが、県内において、フードバンク事業を行っている団体は多くない。活動を行っているNPOは大変な努力を続けておられる、協力していただける、企業訪問、
フードドライブの積極てきに展開、社会福祉協議会との連携、協力依頼等々。前橋市
が自治体として委託方式によるフードバンク事業を実施されていることは本市

でも、取り入れることができるのではないか、生活困窮者のセーフティーネットとして生活保護費があるが、その支給までの間の食事ができない方への大きな力となる家庭、企業のなかでまだ十分安全な食品を食糧支援として提供することの重要性をしっかりと課題整理し、研究していきたいと感じました。

②については、内陸部での海水魚の養殖については、時折、報道されています。軌道に乗って安定して海水魚等の提供ができているところはまだ少ない説明をして頂いた範囲の中で、やはり水質を維持することの難しさを感じました。その、ろ過装置の開発だけでもかなりのエネルギーが必要であると。まだまだ課題の多い分野ではないかと思います。